

委員と村長の質疑応答 (要約)	補足/住民側の考えと現状
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">座間味浄水場問題/参考人招致 (村長)</p> <p>0'00” (新垣清涼委員長) 再開いたします。次に宮里哲参考人からの意見聴取を行います。(中略) 2'36”「参考人から座間味島で計画されている浄水場建設について、簡潔にご説明をお願いいたします。宮里哲参考人。」</p> <p>0'55”～ 【宮里哲村長】おはようございます。座間味村長の宮里でございます。本日こういう機会を作って頂き、ありがとうございます。水道広域化に関して、私も就任当初からいろいろと一生懸命がんばってきて、県知事部局、企業局、県議会の皆様のご理解とご協力の元、進んでいることに心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。1'25”今回の座間味島の浄水場に関しての私の考え方を簡潔に申し述べたいと思います。まず、住民の大半が場所の変更を望んでいるということに関しては、最初の説明会で、企業局の方から、放流水を隣接しているビーチに流すということから始まったと思っており、その件に関しては、その後、企業局でビーチには放流しないと明確に答えていることが、まず1点。その議論の中で、ダム下流域だとかテニス場跡地など、反対をされている方々から、いろいろ場所の提示も頂いている話を聞いており、最終的に今回の高台の話が出ていると私は承知しています。その間、反対をしている方々の作成しているホームページ等々含め、先週の時点での確認だと、<u>放流水はビーチに流すとの記述が未だに文章として残っている事や、反対している方々の提案する場所がこれまでに何度か場所が変わってきているということ、そして、県の陳情に関しても、一度、取り下げて、新たな陳情が出たという話も伺っていて、これらの経緯をすべて踏まえた上で、署名活動がなされているか</u>というところに私は疑問を持っています。次に、高台の話が出てきた時に、津波の話が出ているが、<u>自然災害は津波だけではなく、例え</u></p>	

ば高台に造った場合、山を切ることによって、地すべり等に関しても考慮すべきですし、仮に高台に建設となると、村道や林道の隣接地を選ばないと工事ができないだろうとも考えています。本村の地形を考慮すると、大規模な用地造成が見込まれることから考えると、適当な場所を探すのは考えにくいのではないかというのが、まず1点。それと、国立公園指定により、山側はほとんど第三種特別地域に指定をされています。そういったことも踏まえ、景観、環境への負荷等々も考えることが必要だ思っており、私としては、企業局の方から放流水をビーチには流さないということが明言されたこと、用地取得に時間がかからず、地域指定もない場所であることが必要だと考えており、さらには沖縄県の現振興計画の期間、一括交付金含めて有利な補助金がもらえる期間等々踏まえますと、それから、その中でイニシャルコストとかランニングコスト、そして、景観、あるいは環境への負荷、事業期間、それらを考えますと、私としては、企業局の考え方である「キャンプ場隣接地」に造るのがもっとも適切ではないかと考えております。しかしながら、これまでの議会と企業局のやり取りの中で、「迅速性が求められる状況だが、住民の意見を受けた課題を含め、再検討を行うとともに、住民や村の意見を踏まえ、災害対策や自然環境への影響など、総合的に勘案し、改めて選定したい」と話しているとも伺いましたので、その辺の状況も踏まえながら、また、結果が出てきたら、その時には、それはそれで、一生懸命、私の方でも考えさせて頂いて、また、私の考えをその時に述べさせて頂ければと考えております。以上です。5'45”

6'50”

【崎山嗣幸委員】 改めて、村長ご苦労さんです。先ほど、企業局の提案している阿真キャンプ場が適地だとお話され、最初に放流水の問題が解決したとありましたが、放流水の問題は、当初、そこに一日最大90トンという排水が阿真ビーチに放水されることで、ウミガメとか藻場への影響が、生態系壊されるということがあり、後ほど、企業局が専門家の意見も浄水場からの排水がサンゴに与える懸念が出たとのことで、排水先と放流方法を再検討すると県は言っていて、今、村長は、放流水は座間味港に流す方

向だからいいと聞こえたんですが、これ、座間味港に流されて、解決するのかということが、気になるんですが、座間味港に放水しても、村長としては問題ないというお考えですか？（村長「最後の方、聞こえませんでした。」）座間味港に放流するというので、その排水は支障ないというお考えですか？

8'25”

【宮里哲村長】 その通りだと思っております。どちらにしても、放流水はどこかに流さないといけないと考えると、隣接している阿真ビーチに流すのではなく、座間味港の方に流すということであれば、ビーチではないですし、港湾の中はサンゴも生えておりませんから、そこから希釈されると思います。そういった意味では、ビーチに流すよりは、港湾内に流して頂いた方がいいと私は考えております。

8'55”

【崎山嗣幸委員】 そこは、塩分とか濃度とか、...とかそういったことの調査とか、企業局との調整をなされた上でのお考えでしょうか？

9'10”

【宮里哲村長】 そこまでは、私の方では承知しておりませんが、座間味港湾の中に海水淡水化施設等もございまして、全然真逆の海水淡水化のやつですから、塩分濃度の濃い水が流されるわけで、全体的な放流量とか水量からすると問題ないと聞いており、どちらかに流すと考えた時には、仮に負荷がかかったと仮定しても、一番どこに流した方がいいかとなると、私が知りうる範囲では、港湾の中に流した方がいいのではないかと私は考えます。

9'50”

【崎山嗣幸委員】 先ほど村長は、自然災害は津波だけではないというお話をしていましたが、厚労省がそういった災害、津波対策するという意味では、高台が望ましいということはお存じでしょうか？

10'15”

【宮里哲村長】 はい。

10'20”

【崎山嗣幸委員】 村長ご存じだと思いますが、沖縄における津波は、やっぱ

→座間味港湾内にもサンゴは生えていて、多くの生きものが生息し、すぐ外は、内海につながっています。

→住民としては、「排水を阿真ビーチに注ぐ川に放流」という当初の案があまりにもひどかったので、座間味港に注ぐ川に放流する方がまだまし、受け入れられるという考えです。座間味港には、すでに下水を処理した水が浄化センターから放流されており、海水淡水化施設の排水も放流されています。そこに浄水場からの排水も注ぐと、全ての排水が座間味港に集まってしまうので、影響を心配しているマリン業者もいます。高月山の現浄水場の排水は、座間味港とは反対側の『安護の浦』に放流しています。『安護の浦』は、避難港に指定されていて、国立公園『指定外』で、座間味港の2倍ほどの面積があり、干潟もあるため、水質浄化機能が高い海域です。排水はこれまでと同じように、『安護の浦』に注ぐ川に放流してもらう方が、住民としては一番不安はないと考えています。

→『水道の耐震化計画等策定指針』（平成27年6月・厚生労働省健康局水道課）に、「原則として、想定津波浸水地域外の高所を選定」と指針が示されており、沖縄県の『想定津波浸水図』では、座間味村は15.2mの大波に襲われて、浄水場予定地の『阿真キャンプ場』は最大浸水深5.0m以上10.0m未満の海中にすっぽり飲み込まれ、甚大な被害が想定されています。

りまだ予想されていて、かつて大きな地震、津波が押し寄せて、座間味でも多分 10m 以上の予測がされていると思います。その津波の対策について、村の計画はどのようになっておりますか？

10'45”

【宮里哲村長】防災計画はございますが、だいぶ前に作っておりまして、まだ見直しをかけていないところです。できるだけ早く防災計画を見直すという話をしているところでございます。

11'00”

【崎山嗣幸委員】新聞の報道で、座間味における津波の被害予想については、村長、ご存知でしょうか？何十メートルなのかとか。

11'10”

【宮里哲村長】新聞報道に関しては、そんなに詳しく、私は承知しておりません。

11'15”

【崎山嗣幸委員】この座間味港で 10.8mとか、それはご存知ですか？予想されていることは。

11'30”

【宮里哲村長】10m の津波を仮定しますと、集落内はほぼ全部浸水といえますか、津波が入ってくるというふうに承知しております。

11'40”

【崎山嗣幸委員】県の防災対策の指針と村の防災対策ということで、キャンプ場だけでなく島全体が大変な被害をこうむるという意味は、村長さん、防災対策は、先ほどから聞いていますが、深刻さはありますでしょうか？

11'55”

【宮里哲村長】（「休憩お願いします。深刻さというのは私が考えている深刻さという意味でよろしいでしょうか？」）10m クラスの津波が来た場合には、相当な深刻な状況になるというのは、想定されます。

12'15”

【崎山嗣幸委員】最後にお聞きしますが、住民との選定ですが、村長は、放流水が重点的なことをおっしゃっていたが、住民の皆さんの意見を聞くと、

→現行の『座間味村地域防災計画（平成 25 年 3 月）』は、沖縄県が平成 22 年に策定した『沖縄県地震被害想定調査報告書』に基づいて作成されたもので、翌 23 年に起きた東日本大震災を受けて県が更新した『沖縄県地震被害想定調査報告書（平成 26 年 3 月）』が反映されていないです。そのことを平成 31 年 3 月 6 日の村議会で指摘され、これから検討するそうです。

→座間味港内にある既存の海水淡水化施設は、特に海側の海拔 2mのところであり、甚大な津波被害が想定され、津波がくれば一番に被災する場所です。阿真キャンプ場も海拔 2mなので、同時に被災する可能性は高いので、自然災害に対するリスクを分散するためにも、新しい浄水場は高台に建設するのが望ましいと考えられます。

ほとんどが、高台がいいと意見が出されているようなんですが、住民の中の意識調査については、村長としてはどのように把握されていらっしゃるのですか？どこがいい感じと、場所の。

13'00”

【宮里哲村長】住民全体の意見はなかなか聞きづらい部分がありますので、これまでやっておりません。やはり、高台に造る場合には、環境負荷であったり、景観や事業期間の問題、特に座間味島の浄水場は喫緊に問題を抱えているので、水質も、早めに造り変えないといけないと私は認識しております。総合的に勘案した時には、高台よりは現実的にすぐにでもできる場所というのが私の考えです。

13'30”

【崎山嗣幸委員】村長がおっしゃられた「住民合意」が、地方自治の原点だと私は思うんですが、村長の「現在地（阿真キャンプ場）が好ましい」ということについて、いろいろと問題点も含めて、「住民の合意を得られている」という自信はおありでしょうか？

13'50”

【宮里哲村長】住民の合意、何を持って合意かというところがあるかと思いますが、どれだけの方々が賛成、あるいは反対をすれば、民意になるかというところは、非常に議論する部分はございますが、ただ、高台の話、最初は放流水から話が始まっておりまして、去年の末頃から高台の話も出てきたかと。それまでにいろいろと、反対をされている方々は、住民の署名活動もやっていると聞いていますが、これまでの経緯をすべて踏まえた上で、署名活動が行われて、署名された方々がここまでの経緯を全部踏まえた上で署名されているのか、当初のままで終わってやっていないのか、やっているのか、その辺も含めて、考えないといけないと思います。いずれにせよ、企業局でも新たに、もう一回選定し直すと言っておりますので、その中でしっかりと、私も住民の方々の意見を拝聴しながら、いろんな考え方を述べていきたいと思います。

15'00”

【崎山嗣幸委員】今、村長が触れられた意見について、住民の皆さんは何

割くくらいが村長の意見に賛同していると思っておられますか？

15'10”

【宮里哲村長】それはちょっと分からないですね。

15'20”

【崎山嗣幸委員】 住民の合意が一番重要だということ、村長おっしゃられましたので、やっぱり最後まで、住民が納得できるような適地に造ろうということには、異存はありませんか？

15'30”

【宮里哲村長】 異存はございません。

15'35”～

【赤嶺昇委員】今日はありがとうございます。(少し休憩はさむ) 16'00”
浄水場の必要性については、早くということも含めて理解できました。それで、高台にした方がいいと言ったのは、実は、私が代表質問で、高台がいいんじゃないかと、住んでいない者が言うのもどうかと思うんですが、客観的に僕は言ったんですね。それで、企業局がもう一回、いろんな意見もあるので、年内までもう一回調査しようということで、それが決まった場合には、村長は協力していくというお考えですか？

16'40”

【宮里哲村長】もちろん、もう一度調査をし直すということでございますので、その結果はしっかりと受け止めたいと思っております。

16'50”

【赤嶺昇委員】そうですね、やっぱり、いろんな意見があって、村長の立場もあるかと思うんですが、先ほど別の参考人からも話を聞いている中で、なんかトレーラーハウスがキャンプ場にあるというのがあったんですけども、これは、村長は、その内容というのは承知していますか？

17'15”

【宮里哲村長】(「休憩お願いします。内容というのはどういう内容？」赤嶺委員「3か月、置かれていて、浄水場の建設予定地に3か月あったよとか」「あ、了解しました。再開。」委員長「再開いたします」) 承知しております。

→この答弁で、「住民が納得できるような適地に造ろう」という村長の方針が示されました。

17'30”

【赤嶺昇委員】あれは、要するに、村から了解をもらって、そこに置かれたということですよねですか？

17'40”

【宮里哲村長】話が来ていたということは聞いてはいますが、ただ、許可とか、そういう条例の整備がそこにはされていませんでしたので、これを最初に持って来られた方はうちの観光大使で、当時ですね、そういったことも踏まえて、仮置きするのはいいんじゃないかということでお話しさせて頂いておりました。

18'00”

【赤嶺昇委員】あれは、県の土地なんですか？なんか村議会では「県の土地」という答弁があったと僕は聞いたんですが、これはどうなんですか？

18'10”

【宮里哲村長】細かい測量をされているわけではないので、キャンプ場に関しては、村の方で民間の土地を借り上げてやっているので、その一部だと私たちは認識しておりました。県の土地ではないということです。

18'25”

【赤嶺昇委員】それと、さっき、『座間味浄水場建設予定地の変更を求める会』の中村会長が、村の方から、この「会長を辞めてもらいたい」ということを言われたということですが、これ、村長は承知しておりますか？

18'40”

【宮里哲村長】承知しておりません。

18'45”

【赤嶺昇委員】なるほど。あの、これはあっちゃいけないことだと思うんですね。陳情が出ているし。あと、署名がこれだけ集まっているということで、先ほど署名を集めている団体のホームページがまだウミガメのこと書いているから、それに基づいた署名じゃないかと言ったように僕は認識しているんですけども、村長はそのようにとっているんですか？

19'10”

【宮里哲村長】それも含めてですね、例えば、署名に関しては、いまだその

→弁護士を通して内容証明を送ってきた会社の代表取締役が座間味村観光大使でした（当時）。平成24年から観光大使に就任し、6年間任務していましたが、昨年の平成30年10月頃、観光大使を辞めたそうです。

→平成30年6月12日の座間味村議会において、宮平譲治議員の「トレーラーハウス、今、恐らく村が借りているキャンプ場用地に置かれていると思うのですが」という質問に対し、総務・福祉課長が「今現在、トレーラーハウスが置かれているところは、実際、村の借りている土地ではなく、あちらは今、現に申しますと、沖縄県の土地となっております」と答弁しています。[平成30年第2回座間味村議会・議事録P.21]それにより、住民はますます混乱しました。

→副村長と担当課長から話がありました。平成31年2月頃のことです。

→この署名は、本当の民意を知りたいということで、村役場と企業局には絶対に見せないという条件の下11月に、座間味島に住む住民（成人）を対象に署名を募りました。その際には、8月23日に企業局と村長が同時にHPでリリースしたコメントの中で、「予定地の脇を流れて阿真ビーチにそそぐ河川には放流せず、放流先及び放流方法については再度検討する」という企業局の方針と、「予定地の脇を流れ阿真ビーチにそそぐ河川には放流しないとの決定を示していただくことがで

記述が残っているというのが1つ。それと建設予定地の提案が反対の方々からありましたが、そこも何度か変わってきているわけですね。提案された方々の理由があると思いますので、それを否定するつもりはございませんが、そういったものの流れをすべて受け止めた上での署名になっているのか、署名をした方々、全員がそれで認識をした上での署名なのかという疑問が残るということを私はお話させて頂きました。

19'45”

【赤嶺昇委員】それであれば、600名の島民なので、どういうやり方がいいか分からないんですが、村が率先して、村民の意見を、住民投票なのか分からないですけども、明確に聞いた方がいいんじゃないですか？

20'10”

【宮里哲村長】先ほどの答弁とかぶるかもしれませんが、今、企業局の方でもう一度、再調査すると話をしておりますので、まずは、その結果を聞かせて頂きたいということ。それと、もちろん、住民にはそれを開示して、各種法令等々を守りながら、できるのかできないのか、そういったことを判断するのも行政の重要な役割だと認識しております。

20'30”

【赤嶺昇委員】企業局長と直接やりとりをしました。それで結局、企業局はどうしたいの？村はこう言っている、陳情者はこう来ていると、どう対応するの？と聞いたら、やっぱり住民合意が大事と、企業局長自ら言っているんですよ。先ほど、村長も、住民合意を尊重するとっておりますよね。やっぱり住民合意だと思いますよ。で、その中で、企業局が去年から説明会等をやっているということなんですけども、村長は、説明会には何度参加されましたか？

21'10”

【宮里哲村長】参加はしておりません。

21'15”

【赤嶺昇委員】だから、こういう、我々はですね、やっぱり大事な浄水場建設をするにあたって、やっぱりあれだけの小さな島で、今後、もめごとがないようにまとまっていた方がいいと思うんですよ。外に出れば、

きました」という村長の言葉は、ほとんどの住民が知っていました。また、それを確認した上で、今の現状を説明しながら、署名活動は行いました。成人479名中278名(58%)、95観光事業所中76事業所(80%)が見直しを求めています。(12月10日時点・成人479は島民約600名から、未成年と、村職員、教職員を除いた数)。また、平成31年1月24日に行われた第3回住民説明会でも、多くの住民が「高台への変更」を希望しました。

→そうしていただきたいです。

→企業局が主催した住民説明会は、1回目は平成30年6月18日、2回目は8月1日(当初7月19日予定が台風のため変更)、3回目は平成31年1月24日に開催されました。

みんな知り合いだと思いますよ。そこを含めてね、浄水場を造っていくということからすると、やっぱり村民が、100%はないと思いますが、みんなが納得してそれができて、将来、子どもや孫の時代まで安心して使えるように、やっぱり村長もですね、ご協力をお願いしたいなと思っております。これ、お願いです。以上です。

22'00”

【宮里哲村長】もちろん住民合意、大切だと思っております。その新たな調査の中で、もちろん、住民の合意を得るための調査をするんですが、その中で、いろいろと出てくると思います。例えば、関係法令等々含めてですね、可能性、あるいは、予算の規模とかいろいろと出てくるはずですから、もちろん、住民合意が大事ですけど、そのために、住民を合意させるために、諸々の条件等をしっかりと勘案した上で、企業局には、住民説明会に挑んでほしいと私は思っております。

22'45”

【赤嶺昇委員】(終わると言っていたけど、もう一言) 住民合意も大事、関係法令も大事、それは分かりますよ、ただ、企業局も当初、予算の期限がある、早くやらんといけんとか、急かされてきたわけですよ。私は同じ税金を使うに当たって、もちろん沖縄予算の期限もある、だけどそれ以上に、いわゆる津波の、他の災害もおっしゃっていたが、津波って、やっぱり3.11 から見るように、大変な災害だと思っていますし、県当局の答弁だと、津波が来たらどうするのと聞いたら、近隣の島から機材をお互い使えるようにするとか言うんですが、まったく僕らは納得していませんよ。要するに、近隣の島から機材を使うって、津波が来たら近隣の島も同じように津波の被害あうでしょうというのが、私の感覚です。で、今言う法令とかは、隣の渡嘉敷島でできているわけですよ。住民合意も大事、だけど関係法令も大事とか、いろんなものを総合的に勘案して、企業局は年内には、時間もないので、いろんな意見を聞くと思います。私は、企業局が3回も説明会しているんだったら、やはりそこに村長が出向いて、明確に村民と膝を突き合わせて、こちらの委員会に来る前に、村の説明会に行くのが、私は筋だと思いますよ。以上です。

→まさにそのように、住民も願っています。

→住民もそれを一番に望んでいます。

24'45"～

【玉城武光委員】村長、ご苦労様です。今、村長が答弁の中で、住民の合意を拾うことは考えている、企業局ともしっかり膝をつめていきたいということをおっしゃっている中であるんですが、だけど、選定としては、企業局が選定した場所が望ましいというその理由は何ですか？

25'20"

【宮里哲村長】（「休憩。選定した場所というのは、今のキャンプ場隣接地ということよろしいですか？」）先ほども、一番初めに話をさせて頂きましたが、キャンプ場隣接地を、今のところ企業局は提示をしていると思いますが、その場所は、事業期間、用地の購入、用地造成とか、工事が迅速にできるんじゃないかとか、諸々のこれまで言われてきた条件を考えますと、高台よりは、今の候補地である場所の方が、早くできるんじゃないかということと、環境負荷含めてクリアと言いますか、全部がクリアできるとは思いませんが、比べた場合には、キャンプ場隣接地の方がより現実的ではないかということです。

26'20"

【玉城武光委員】場所は阿真ビーチが望ましいとの考えは、この津波の問題が出る以前のことでですか？今現在もそのように考えているんですか？

26'35"

【宮里哲村長】今の時点で候補地として出てきている、あるいは候補地の前段として今出てきている場所が高台だということだと思いますが、その中でも、今、私の知りうる情報の中で客観的に考えますと、キャンプ場隣接地が望ましいと思っております。

26'55"

【玉城武光委員】先ほど答弁の中で、津波の防災計画、これから考えるということでしたが、こういう津波被害の問題が懸念されている中で、また観光の面からもいっぱい心配されるという中においても、まだ、県が選定をしている阿真ビーチにこだわることから脱却しないと、住民との合意はできないと思うんですが、どうなんですか？

27'35”

【宮里哲村長】今、私が頂いている情報の中では、阿真キャンプ場隣接地が
いいと発言をさせて頂いておりますが、先ほども申し上げた通り、企業局の
方で、再度調査をするという話を聞いておりますので、その調査の結果
は、もちろんまだ出てきていないわけですから、その結果が出れば、また
私も中身をちゃんと見せて頂いた上で、再度、私の考え方をまとめてい
きたいという趣旨でございます。

28'05”

【玉城武光委員】その考え方で、言ってほしいのは、いろいろ住民合意を議
論する必要があるとさっきおっしゃったんですが、住民の合意が必要なん
ですよ、一番。その中であなたは1回も説明会に参加していないと、
これはどういうことなんですか？

(具志堅委員「そういうこと言う場所じゃないよ、責めるのはやめなさい！」
玉城委員「責めるんじゃない、責めてない。そういう説明会に行ってほしい
と言っている。」ガヤガヤなる。委員長「休憩します。ちょっと..」具志堅委
員「委員長、注意しなさい！」座喜味委員「組長に対して、そんなのはない
よ！」玉城委員「説明会にね、行ってほしいということなんです。」)

28'40”

【宮里哲村長】休憩中ですよ。そのために、私は副村長がいると思
いますし、説明会に関しては、座間味村が主催する物であれば、責任を持って
僕も出ないといけないと思います。公務も多ございます。そういう中で、
副村長がちゃんと対応しているわけですから、その辺は、いろいろな考え方
があろうかと思いますが、ぜひ、私達の立場もご理解頂きたいと思ってお
ります。

29'10”

【玉城武光委員】(委員長「再開します。よろしいですか?」もういいです。

29'20”～

【糸洲朝則委員】私は1点だけ。今日、村長の話聞いて、ポイントは2つ
ですよ。水事情も勘案すると早めにこの浄水場を新設しなければならない

→企業局が主催した住民説明会は、1回目は平成30年6月18日、2回目は8月1日(当初7月19日予定が台風のため変更)、3回目は平成31年1月24日に開催されました。

→住民もそれを一番に望んでいます。

と、これは賛成反対抜きにして、全村民が待ち望んでいることだと思し、もう1点はこの場所選定にあたって、いろんな紆余曲折がある。さっきの陳情者の参考人からもだいたい理解できました。ここで、先ほども提案をしましたが、今、村長の話の中で、企業局も再度調査をしようと言っているということになっていますから、原点に立ち返って頂いて、「選定委員会」みたいなものを作って、そこで議論をしてそこで決める。いわゆる新石垣空港の稲嶺知事がやった選定手法です。あれも30年間賛成反対、そして県の場所も最初の白保から、カラ岳...、決まらないわけです、どっちにやってもリスクがあり、またメリットデメリットがある、そういう中で、各公民館の代表とか有識者も入れて、本当に島全体で皆さんで決めてくださいというふうにして、あの新石垣空港なんです。その手法を用いられたら、どうですか？これを提案して、村長の所見を伺って終わります。

31'00”

【宮里哲村長】ありがたい提案だと思っておりますが、事業主体が座間味村じゃないということ、先にすみません、申し上げさせて頂きませんが、企業局とも相談をさせて頂きながら、どういった形で進めていくかというのは、また私の方からも提案、あるいは意見を拝聴していきたいと思っております。今のご意見に関しては、しっかりと受け止めたいと思っております。

31'30”～

【山内末子委員】 よろしくお願ひします。先ほど少し玉城委員からもありましたけれど、3月6日の村議会の中で、このように発言していると理解しております。「景観の問題、あるいは山を切って、その後の維持管理、切った後の土砂の流出、環境省が定めている国立公園指定で考えると、私は山を大規模に切るよりはキャンプ場に造った方が良い」という、(村長「キャンプ場隣接地!」) 隣接地、そこが良いというような答弁があったかと聞いておりますが、その辺の真意について、お聞かせください。

32'15”

【宮里哲村長】 基本的にはそういう形で、発言をしていると思います。

32'20"

【山内末子委員】 ということは、それでも今、真意としてはキャンプ場に隣接した方がいいと考えていると。ですけど、今の村民のいろんな大きな思い、あるいは危険性の問題、観光資源の問題、いろんな形を考えて、県の方も候補地を広げてきた。その広げたことに対して、村長としては、それを尊重すると理解してよろしいですか？

32'50"

【宮里哲村長】 これから調査なので、しっかりと調査結果を私は待ちたいと思っております。その中で、もちろん、企業局が最終的にここがいいという場所が出てくるはずですが、そこに関してしっかり見た上で、基本的に僕はノーと言うことはないと思いますが、まずはその内容、その選んだ理由など含めてすべて見せて頂いた上で、最終的にまた発言をさせて頂ければと思っております。

33'20"

【山内末子委員】 本当に、600名という小さな島ですので、住民同士が、あちらがいいこちらがいいというようなことでね、ずっとこう永久的に、いろんな思いを抱えて生きていくのは、とても苦しいと思うんですよ。そういった観点から、やはり、先ほどから言いますように、住民としっかりと合意事項については、もちろん県の事業主体になっておりますが、それを使うのは皆さんであって、皆さんたちの生活の中に溶け込んでくるべき施設ですので、やはり村長が村民と、特に今の現在地に対して反対をしているような住民とは、膝を突き合わせて、じっくりと話を聞いていく。で、自分の思いを伝えていく。このキャッチボールをする作業というのが、ぜひ、これがちょっと今まで足りなかったんじゃないかなと思うんですけども、その辺についてはいかがですか？

34'20"

【宮里哲村長】 その件に関しては、うちの副村長がしっかりと対応してきていると思いますし、これからまたですね、議論が深まってくると思いますので、私が出る必要がある場合には、出ていきたいと思います。

34'35"

→平成31年1月24日の第3回住民説明会で、多く住民が高台への見直しを求め、「民意は示されたと思うが？」という質問に対して、企業局の建設統括監は、「民意に添いたいところだが、許認可事業に権限を持つ村がノーと言えば、建設できない」という趣旨の答弁をしています。

→住民もそれを一番に望んでいます。

【山内末子委員】 やはり、副村長がやるということも必要かもしれませんが、600名という人口ですよ。そういう意味では、村長が自ら足を運んで、しっかりと受け止めて、しっかりとまた自分の思いを、副村長じゃなくって、村長の思いというものを伝えるのが、とても重要だと思っておりますので、その辺の対応については、ぜひ、ご検討もお願いしたいと思っておりますけど、どうでしょうか。

35'05”

【宮里哲村長】 まあこれからは、そういうことも含めて考えていきたいと思えます。ただ、過去の説明会においては、非常に怒号が飛び交ったりということもあって、議論にならない説明会も実はございました。そういったことも含めて、経緯がありまして、私たち執行部の判断、座間味村役場の判断として、村長が出ていくのは時期尚早じゃないかということでありました。それだけでなく、もちろん公務出張も含めてなんですが、そういったこともありましたので、議論が深まるような会議ができる状況になれば、もちろん、私も出ていきたいと思っております。

35'40”

【山内末子委員】 ぜひ、ここがポイントだと思っております。企業局もいろいろ考えて、合意した場所を一番考えると思っておりますので、その辺、十分、考慮してほしいと思っております。

36'05”～

【座波一委員】 ご苦労様でございます。このキャンプ場に関する思いというものをですね、陳情者の皆様から聞いたんですけど、その後、今、キャンプ場の利用状況、整備の状況とかも含めて、今、どういう状況なんですか？

36'25”

【宮里哲村長】 キャンプ場に関しては、国立公園指定以降、非常に多くの方々が利用されるようになってきていると思っておりますが、数字的なところは、今のところ、私は持ち合わせておりませんので、必要であれば、また改めて、ご報告をさせて頂きたいと思っております。

36'45”

→住民説明会が荒れる一番の原因は、企業局や村から発信される情報が少なすぎることで。平成30年8月1日の第2回住民説明会から、平成31年1月24日の第3回住民説明会の間に、県議会では2度も審議していただき、津波のリスクも明らかになりましたが、その間、企業局や村から住民は何も知らされていないです。『座間味浄水場建設予定地の変更を求める会』では、月に1回程度、誰でも参加できる住民集会を開いて、情報の共有に努めていますが、事務局の時間と人手不足もあって限界があり、「住民集会に参加することで、村から『反対派』のレッテルを貼られるのでは？」と心配して、参加できない住民も多いのが現状です。団体の代表者を集めての意見交換会も有意義ではあると思いますが、意見交換会の内容を住民に周知するのは、団体代表者にとって負担が大きすぎて、現実的ではありません。企業局、村、住民の3者での情報共有をぜひお願いしたいです。

→島の中でも特に、自然が豊かで、それを身近に体験できるキャンプ場として国内外から人気が高く、その陸域から海域全体が、島で最も重要な自然観光エリアです。

【座波一委員】 予定通りこの浄水場がここにできた場合に、このキャンプ場は利用できなくなるんですか？

36'50”

【宮里哲村長】 キャンプ場隣接地だと認識しておりますし、キャンプができなくなるということはないと私は考えております。

37'00”

【座波一委員】 先ほどのトレーラーハウスの問題というのは、非常に不可解でして、何かリゾート計画でもあるんですか？

37'10”

【宮里哲村長】 細かい事業計画については承知しておりませんが、ただ、浄水場の問題とですね、トレーラーハウスの問題というのが、ここでそんなに議論される内容であるのかというのが私には疑問であります。(具志堅委員「うん、結びつかないんだよな。’) 造るか造らないかとか、あるいは別な場所に造らないかという話で、今日、私はここにお伺いさせて頂いておりますので、トレーラーハウスに関してはですね、そのトレーラーハウスが、確かに当時ありましたけども、だからと言って、浄水場問題にこっち側が有利になるというようなことはないと考えておりますし、ここでトレーラーハウスの話をするのは、私はちょっと違うんじゃないかと思っております。

38'00”

【座波一委員】 その説明を聞いている中では、我々も全くまだ理解できていないんですが、それと、企業局が見直しを検討するということで、その方針が決定すれば、村長は、強引にするつもりはないと、いろんな意見も聞きながら、方針をまた今後も見直していきたいと、非常に大局的な考えを持っていると私は非常に評価しますが、そういう意味で、企業局もこの水道事業の理念でこういう事業を展開してきて、全島各地でやってきているわけだから、プロですよ、プロ。その中で、用地を決定していった中で、環境省との調整があったのかどうか、要するに、座間味全体が保護地域ですから、選ぶ時に、企業局はそういう意見を聞いて、やったのかというこんな説明を受けていませんか？

→浄水場建設予定地は、キャンプサイトではないので、テントが張れなくなることはないですが、魅力が低下し、利用者が減る可能性は十分あります。

→平成31年1月24日の住民説明会で、住民が「環境省が『第三種特別地域への建設は許可できない』と言ったのか？」との質問に対して、建設課長は、「環境省とは折衝してきたが、可否についての言及はなく、企業局が、法令に照らし合わせて『難しい』と判断した」という趣旨の答弁をしています。

39'05”

【宮里哲村長】 国立公園に指定されて、普通地域、第一種、第二種、第三種、特別地域と種類がありますが、そういったものも、当初の選考の中で、環境省に対して、企業局の方から問い合わせしていると私は思っております。それがなくなかなか答えは出せなかったと思いますね。で、ちなみにキャンプ場は、普通地域でありまして、一番ハードルが低いと言いますか、網がかぶさっていない部分になります。

39'35”

【座波一委員】 行政執行者の責任として、村民の利益と、最大限の効率を上げるためにも、やはりその選択という点では、理解できるが、これだけ住民の意見が分断したということについては、やはり、先ほどのご指摘もあったような村民に対する説明会での頭ごなし的なのがあったとか、そういう批判があるものですから、あるいは村長が出なかったという不満も、今後は取り除いていかないといけないというのは、確かにあるのではないかと思います。ただ、企業局の決定が出れば、そういう住民の意見を、まとめていくという覚悟の上で取り組むという自信があるわけなんですか？確認させてください。

40'35”

【宮里哲村長】 はい、しっかりと大局的に判断をさせて頂きながら、企業局と連携をさせて頂ければと思っております。

40'45”

【座波一委員】 工期遅れに対する懸念も、私は陳情者にも述べたんですが、やはりこれは、次の離島も整備を待ち望んでいるところもありますし、逆にこんな遅れているところに回すよりはという考えも出てきかねませんので、それは大きな問題だと見ているんですが、先ほど、37年までであるという認識をされていると陳情者がおっしゃっているんですよ、それは行政側としては握っていますか？

41'20”

【宮里哲村長】 予算に関しましては、私たち行政、単年度主義でございますし、37年まで確実に予算があるかどうかと言うのは、沖縄県の予算なので、

→自然度の重要度が高いものから「特別保護地域」「第一種」「第二種」「第三種」「普通地域」の順番です。『浄水場等建設候補地の選定 報告書（座間味村・渡嘉敷村地内）』（平成29年3月・沖縄県企業局配水管理課）の「スクリーニング結果及び考察」には、「第一に慶良間諸島国立公園区域の地域指定を確認した」とあり、その上で、第三種特別地域の「旧ゴミ捨て場」「阿真チジの北」「阿真チジ」の3カ所を候補地として選定しているのので、候補地選定の時点では、企業局が「第三種特別地域での浄水場建設は可能」と考えていることが推察できます。

私が言う立場でもないと思いますが、それだけでなく、沖縄振興計画はあと3年で切れますよと、高率補助がなくなる可能性もあると、いろんなことを考えた時に非常に心配しているところでもありますし、37年まで予算が確実に取れるというのは、私の行政経験の中からすると常識的ではないと思っております。考えられないです。だいたい予算要求というのは、次年度要望ぐらいの話ですよ。

42'00”

【座波一委員】私も勉強不足で、37年度の件はもう一回企業局に確認しますが、それがもしあったとしたら、じっくり腰を据えて、これはこれでやってくださいというようなことになりかねませんので、私も勉強してやりたいと思っております。あと、環境省ですが、許認可問題として、やっぱりその村の責任者として予想される問題というか、課題がやっぱりあるわけですよ？ どういったことが想定されますか？

42'40”

【宮里哲村長】行政の手続きの中で、法律等々の網がかぶさっている場合、いわゆる今回の場合は第三種特別地域に高台は当たるんじゃないかとか、あるいは、キャンプ場隣接地は普通地域だとかありますが、そういったところで、高台の話が出てきた場合には、確実に環境省との調整は必要になると思いますし、私の感覚で言いますと、普通地域で造られる場所があるのに、特別地域をあえて選ぶんですかと、そこをしっかりと論破しないといけないんじゃないかなと思っております。

43'20”

【座波一委員】島民の意見もさまざまだと思うし、この海岸の自然を永久的に守りたいという強い思いも尊重するべきだと私は思っております。だから、そのキャンプ場の隣接地に造られた場合、浄水施設を守るために、外洋にテトラポットなど置いて、そういう強靱化対策をするのではないかという心配もあるという発言もあったんですが、そういうものも含めて、やっぱり今から、その環境を守るための、どこに造られても、環境をしっかりと守るための村長の強い意志というものを示さないといけないと思いますけど、そこはどうですか？

→内閣府のハード交付金の活用事業として『本島周辺離島施設整備』も「総事業費：202億円、事業期間：平成28年度から平成37年度」、県保健医療部の『沖縄本島周辺離島8村における広域的水道施設整備基本計画』も平成37年度までの予算組み、今回の離島8村の広域化に伴い、企業局が厚労省から受けた『第11回変更認可』の目標年度も平成37年度となっております。

[企業局ホームページ>右上「事業紹介」>沖縄振興公共投資交付金ハード交付金活用事業]

[企業局ホームページ>右上「事業紹介」>水道用水供給事業「2 事業計画の変遷」]

→「浄水場やポンプ所等の施設の更新を行う場合は、原則として想定津波浸水地域外の高所を選定する。」という厚生労働省の指針を説明すれば、環境省の理解は得られると考えられます。

→住民もそれを願っています。

44'10”

【宮里哲村長】 国立公園指定に関しましては、私なりに汗をかかせて頂いたつもりでございます。ですから、環境をないがしろにするような行政運営は、私はこれまでしてきたつもりはありませんし、これからもういったことはするつもりはありません。環境だけの話で言いますと、今言われているキャンプ場隣接地が環境負荷も含めていいのか、あるいは本当に高台でいいのか、そこをですね、しっかりと私は議論にも加わっていきたいと思いますし、そういった観点から、候補地を選定するひとつの材料となる、とても大切なことだと思っております。

44'45”

【座波一委員】 最後に、繰り返しになりますが、今後の県の調査の方針に、あるいはそういう進め方が決まれば、ぜひとも、真摯の立場の中で、陳情者とも正面から向かい合って、さらには企業局、あるいは環境省ともしっかりと、これは法的なものを無視してできませんので、そこは行政者としての辛いところもあろうかと思いますが、しっかりとそれを踏まえて、実践して頂きたいと思って、終わります。

45'15”

【宮里哲村長】 ありがとうございます。あの、もちろん、私が判断する前に、企業局が調査結果を持ってくる時には、すでに法的なものも含めてクリアできそうであるという前提で最終候補地、あるいは候補地が何点か出てくると、承知をしておりますので、しっかりとその辺は、私も法律を守りながら、一番いい場所に、できるだけ早く造れるようにがんばっていきたいと思っておりますので、議員の皆様のご協力を、ぜひこれからもよろしくお願いいたします。

[2部（参考人招致／村長）終了] 次は、企業局の陳情審査

→是非、住民とも、候補地の環境面についてだけでも話し合いをしてもらいたいです。

→住民もそれを一番に望んでいます。